



## 発表会の振付が進んでいます！

5月の中旬から発表会の振付が始まりました。“通常のレッスン”にそろそろあきてきた子どもたちは喜々として踊っています。何度でもくりかえして踊ってくれる子どもたち。汗をかいて真っ赤になった顔はこのうえもなく美しいものに思えます。

今年のプログラムは 『鳥と花のおしゃべり』『神さま背負って』です。

『鳥と花のおしゃべり』の構想は、藤田の見たある光景から始まりました。野原いっぱいひろがるすすき。一羽の雀がすすきの穂の上に乗って、ゆらゆらと揺れていました。すずめは遊んでいるのです。そのうちにたくさんのスズメが集まってきて同じようにすすきの上に乗ってススキの穂を揺らし始めました。野原全体がゆらゆら揺れています。いつの間にか、スズメが飛び立ったのでしょうか。我に返った時にはスズメの姿はなく、ススキの穂だけがゆらゆらと揺れていました。

『神さま背負って』で、菊本は男の子が神さまを背負ってどこかに連れていく、という構想をまず考えました。でも何故、神さまは背負われていて、どこに連れられて行くのか、考えられないでいたときに、石牟禮道子さんの『水はみどろの宮』という本を読みました。そこにあったお話は、山の神さまが、秋になると山の胎の中深くにある泉をきれいにし、神さまは泉をきれいにし力を使い果たし、出てきたときには疲れ果てて目も見えず、小さなへびとなっている、というものでした。雨や雪をその中にたくわえて浄化し再び流す、という山の作用はあまりにも見事で神さまのなせること、と考えた人々の思いがよくわかります。このことをヒントに今回のお話を考えました。

### 鳥と花のおしゃべり

#### 秋

- |                |                  |                    |
|----------------|------------------|--------------------|
| 1, スズメとススキ     | スズメ・いっしょにゆれてくれる？ | ススキ・ウンいいよ、みんなもおいで。 |
| 2, ヒヨドリとヤマモミジ  | ヒヨ・アタマがいたいんだ。    | モミジ・少し休んでいきなさい。    |
| 3, ツグミとハナミズキの実 | ツグミ・キミの花は白かったよネ。 | ハナミズキ・そうよ、実は赤くなるの。 |

#### 冬

- |                |                        |  |
|----------------|------------------------|--|
| 4, マヒワとハンノキ    | マヒワ・雪になったけど、寒くない？      | ハンノキ・アリガトウ心配してくれて。でも寒くないよ。<br>足元はあったかいんだ。種をおあがり。 |
| 5, ヒレンジャクとカキ   | ヒレンジャク・おいしそう。          | カキ・ひとつだけ残しておいてね。                                 |
| 6, ムクドリとナンキンハゼ | 枯葉と木枯らしと雪が別々の歌をうたっている。 |  |
| 7, モズとロウバイ     | モズ・今日は風のないやさしい一日だね。    | ロウバイ・そうさ、空もきれいな青だ。                               |

#### 春

- |              |                        |                     |
|--------------|------------------------|---------------------|
| 8, ウグイスとサクラ  | ウグイス・キミたち花はどこからきたの？    | サクラ・土の中からよ。         |
| 9, カルガモとレンゲ  | カルガモ・ちょっと通して。          | レンゲ・おしくらまんじゅうしてるのよ。 |
| 10, ヒバリとナノハナ | ナノハナ・どこまであがるの？         | ヒバリ・あがれるだけあがるんだ。    |
| 11, オシドリとポタン | オシドリ・こんなにも美しいのはみたことない。 | ポタン・もっときれいになりたいの。   |

#### 夏

- |                |                          |                         |
|----------------|--------------------------|-------------------------|
| 12, ツバメとシャクナゲ  | ツバメ・ちょっとひと休みさせてください。     | シャクナゲ・どうぞどうぞ旅のお話しきかせてね。 |
| 13, ホウオウとツクミソウ | ツクミソウ・どこまでいくの？           | ホウオウ・ちょっと月まで            |
| 14, アオゲラとシラカバ  | シラカバ・少し話してよ。日本だけにいるんだって？ | アオゲラ・そうなんだ。ここにだけいるんだ。   |
| 15, カワセミとハス    | カワセミ・早く開いて。かくれんぼしてるんだ。   | ハス・アラーツ、いらっしやい。         |

### 神さま背負って

「神が海を清められた。」 「われらはふたたび海に住まうことができるようになった。」  
「しかし神はもう一歩も動けぬ。力を使い果たされた。」 「おいたわしいことよ。」  
「神はもうじき山に向かわねばなるまい。」 「春になる前に」 「雪解けの水が流れる前に」  
「神は山に戻って泉の清めをなさねばならぬ。」 「泉が汚れたままでは山にも川にも海にも美しい水は流れぬ。」  
「だれかが山へとお連れせねばならぬが・・・。」 「自由に動けるのは人だけかもしれない。」  
「人・・・？」

秋のある日。ぼくは白い蝶を追いかけて海辺へとやってきた。蝶をつかまえようとしたその時、何かがぼくを海の中にひきずりこんだ。息ができない。苦しい。もがいていると背中に何かをくくりつけられて、  
「川をさかのぼって山へと向かえ。」

こんな声が聞こえたかと思うとぼくは波打ち際に立たされていた。背中の中は降ろそうとしても離れない。白い蝶がひらひらとやってきて、ぼくの額に燐ぶんを付けた。ぼくは仕方なく蝶について川をさかのぼって歩き始めた。

何かが騒々しく追いかけてきた。ぼくはたちまち囲まれてしまった。え？河童？ 「我らを負かせ」  
ぼくは河童と相撲をとらされて、何度も何度も投げられた。

お地蔵さまがにっこりわらってぼくにおじぎをした。お地蔵さまに背中の中をくくりつけてやれと降ろそうとすると、にこやかだったお地蔵さまが杖でぼくをおさえた。 「なりませぬ。」  
背中の中はびったりとくっついて離れない。

蝶が川を渡っていく。子どもたちが川の中で遊んでいる。ぼくも川に足を入れる。子どもが一人ぼくに近づいて石を渡した。  
「これを持っていて」  
その石はたちまち重くなった。置くこともできずに、ぼくはひたすら石を持って立っていた。

日が傾いてきた。夕焼け空から大きな鳥が飛び降りてきた。鳥と思っただけは天狗？天狗がうちわでぼくをあおぐ。そのたびにぼくは風に吹き飛ばされてよろけた。 「風をとらえてみよ」  
ぼくは思い切って風に飛び乗った。

疲れた。ぼくが座ろうとしたら、笠をかぶった小さな人たちが現れた。ぼくが座れないようにぼくの周りをわいわいと騒ぐ。そのうち雨が降り始めた。笠が差しだされた。 「はい。どうぞ」  
恐る恐る笠をかぶると大喜びでぼくの周りを飛び跳ねた。

辺りは暗くなった。雨はやんだけど、もう眠いよ…。それでも蝶が飛び続けるのでぼくはふらふらになりながら歩いた。誰かが寄り添って歩いている。その人数は多くなったり少なくなったり、一晩中続いた。途中でぼくは何か楽しくなっていた。

ぼくは眠ることなくみんなと一緒に歩いた。辺りが明るくなって一緒に歩いていたみんなが消えて、太陽が顔をのぞかせたとき、ぼくは山の入り口の大きな岩の前に立っていた。ぼくはどうしても山の中に入れない。 「岩に穴をあけてその間をくぐれ」

まぶしいような黄色い葉が舞っている。葉に誘われるように歩いて行くと、大きな木が現れた。木のまわりを白い蝶が群れになって飛んでいた。蝶に押し出されるように歩いて行くと、木には大きな洞があった。ぼくは一匹の白い蝶といっしょに洞へと足を踏み入れた。

流れをたどって水の湧きだす泉に出た。白い祭壇がある。祭壇に背中の中を降ろすと、それは姿を現した。  
「ここまで連れてきてくれてありがとう。この泉はすべての水の源なのだよ。春になる前に泉をきれいにしなければ、川も海も人の使う水も汚れてしまうところだった。春になって水がきれいになったら、その証を君のところに送るからね。」

そしてぼくは蝶と一緒に帰ってきた。ぼくが運んだものは、神さまだったのか。とにかくぼくは帰ってきた。  
ある日、川の上流から一輪の花が流れてきた。ああ、春になったんだね。水がきれいになったんだね。

終わりました。ありがとうございました。

**創作実験劇場** 2016年3月12日(土) 東灘区民センターうはらホール

出演 石井希実 新田小夏 門家由采 村上美羽 渡辺菜子 原田光琉 菊原麻理奈 田口寧々 菊原麻衣花 稲益夢子 林佑季奈 天満彩乃  
坂本のより 田中文菜 平岡愛理 石井麻子 向井華奈子 かのり子 菊本千永 金沢景子 寺井美津子

ダンサー達、ならびに主宰の藤田佳代自身の作舞によるモダンダンス9作品を披露。今回は初の試みとしてジュニアの生徒たちの手で共同作舞した作品も発表され、瑞々しく研ぎ澄まされた感性を満員の客席にアピールした。印象深かったのが金沢景子の作舞、出演による「最期の答え」。音楽に詩の朗読を織り交ぜた意欲的な作品。過去を振りほどくような力強い腕の動きと、虚空を確かめるように踏みしめ途切れぬステップ。時の流れを提示する詩と、それに抗おうとする肉体の対比が鮮やか。"最期"を受け入れるラストに圧倒された。藤田佳代の作舞による「来る」は、"釣り人" "オオガハス" "化石"を配し、さまざまな形の時間の交差を淡々とした音楽に添うように巧みに紡がれた作品。生き続けることを謳歌するように花開く"オオガハス"と生きていたことの証を静かに語るかのような"化石"。この二つが多層的に展開する群舞の緻密さが、観客を独自の世界に引き込んだ。どの曲も選曲の多様さとセンスが冴えていたのが印象的。ダンサー達のメロディーと踊りを融合させる表現のしなやかさや、どのような音楽の変化も逃さないリズム感が観ていて心地よい公演であった。 吉村麻希

**六甲医療生協 デイケア“つどい”菜の花だより** 3月29日(火) 六甲医療生協診療所4F

出演 坂本まつり 田中絵愛 大野琉花 高橋のどか 吉川ひかる 住谷緒 水谷静 菅原那月 住谷落 西和 森川華衣  
岸本穂花 山内愛子 福本莉菜 二木ひなた 江藤衣織 谷川結香 穂井田瑞 森田柚香 岡村春花 本田潤和花  
高橋なごみ 植野瑞希 吉川菜々子 渡辺菜子 門家由采 藤井花名 坂本のより

**第10回こうべトライアルステージ** 3月30日(水) 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

出演 藤井花名「笹舟」 門家由采「シャボン玉はどこへいった」

**第29回こうべ全国洋舞コンクール** 5月5日(金) 神戸文化ホール

出演 藤井花名「笹舟」 門家由采「シャボン玉はどこへいった」